

令和 3 年 4 月 3 0 日

(公社) スポーツ健康産業団体連合会の事業の取組み等

1. スポーツ健康産業団体連合会とは

1988 年（昭和 63 年）、通商産業省（現、経済産業省）の所管の下に、スポーツ産業関連団体をつなぐ組織として、「社団法人スポーツ産業団体連合会」が設立されました。目的は、スポーツをビジネスとする事業者団体・企業が結集し、情報交換・研究の場を設け、スポーツ産業共通の課題の克服を行い、各個別団体と協力してスポーツ産業の地位と発展を図ることとしたものです。

2007 年（平成 19 年）に事業領域を健康とスポーツを繋げる事業に拡大するとして、「社団法人スポーツ健康産業団体連合会」に名称を変更しました。理由は、①スポーツは行う楽しさだけでなく、精神的にも身体的にも健康と密接なものである。②少子高齢化により、病気は治療から予防へと大きな流れに変化してきている。③スポーツと健康との関係に関心を持っている業者も広く取り込み、スポーツを通じて国民の健康にも資する事業を行っていく必要があることです。2012 年（平成 24 年）4 月に公益社団法人に移行しました。

2. 役割と会員について

本連合会の目的は、スポーツ健康産業に関する調査・研究、イベント等の推進、情報の収集・提供による情報発信・政策の提言を通じてスポーツ健康産業の振興を図ることです。役割は、スポーツ人口の拡大とスポーツ健康ビジネスの一層の振興を図ることです。

会員は、団体会員と企業会員です。団体会員は、スポーツ産業と健康産業の関連団体です。企業会員は、にスポーツ用品メーカー（(株) アシックス、ミズノ（株）ほか）、スポーツ施設運営会社（(株) カーブスホールディングス、(株) ルネサンス）、(株) 電通・(株) 博報堂などが加盟しています。スポーツの振興、健康づくりなどの観点から他業種の企業にも声をかけ、入会活動を進めております。

3. 取り組んでいる主な事業

① スポーツ振興賞 ※注 1

スポーツを起爆剤として、スポーツや障がい者スポーツの事業を通じてスポーツ健康産業の振興を図り、地域の活性化（まちづくり）やスポーツツーリズムに貢献した団体・グループ・企業を顕彰するものです。

平成 20 年度に地域・スポーツ振興賞として創設。平成 24 年度にスポーツ振興賞に発展的に改称。年に 1 度、活動内容を募集し、選考委員会（委員長：原田宗彦 早大教授）で審議して各賞を決定します。賞の種類は、大賞と各賞 6 点（スポーツ庁長官賞、観光庁長官賞、経済産業省 商務・サービス審議官賞、日本商工会議所奨励賞、(一社) 日本スポーツツーリズム推進機構会長賞、(公社) スポーツ健康産業団体連合会会長賞）です。賞の実績は、

地域・スポーツ振興賞を含め、これまで通算 12 回です。

② シンポジウム ※注 2

一般の方々（企業を含む）への情報提供として通算 25 回開催

③ 情報交換会 ※注 3

会員及び会員の勧誘として企業・一般への情報提供として通算 18 回開催

④ SPORTEC 展示会への特別協力事業

国内最大級のスポーツ・健康産業展示会「SPORTEC」の特別協力団体として、平成 24 年度（2012 年度）から協力しております。その内容は、実行委員会への参画、SPORTEC セミナーの実施、スポーツ振興賞の授賞式等です。

④ 調査研究事業 ※注 4

スポーツ健康産業の関連事業をテーマとした委託事業を経済産業省等から受託。実績は、平成 26 年度まで 60 本。

4. 要望

本連合会の会員から以下の意見が出ておりますので要望させていただきます。

(1) スポーツを通じた健康増進

全ての国民がいつでも運動やスポーツに親しみ、汗を流し、健康を維持できる環境づくりこそが、我が国の目指す目標と考えます。それを担う中核的役割を果たすのがスポーツ健康産業です。フィットネスクラブは日中だけではなく、朝でも夜でも、天気が悪くても、継続的な運動機会を地域において提供することができ、年齢を問わずあらゆる健康ニーズに応える重要産業です。

また、運動場やスポーツを行う施設は、国民の健康維持に不可欠な施設です。グラウンド、体育館、ゴルフ場（練習場や関連施設を含む）、スイミングクラブ（プール）、ボウリング場、野球場、テニスコート、サッカー場等々各地域の公共施設も含めて、スポーツや運動の「場」が身近に存在していることは極めて重要です。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大によって、各施設はその運営に大打撃を受け、このままでは存続さえ危ぶまれる状況にあります。また、都市部においては、相続などによって存続が困難などとなって運動施設が売却され、「場」がなくなっている状況にあります。

2020 東京オリパラのレガシーの一つとして運動による健康と社会福祉を享受することも掲げられております。2025 年には国内のスポーツ市場を 15 兆円にするという政府目標がありますが、「場」がなくなってしまうと、その目的も達成されなくなってしまいます。スポーツや運動を実践する「場」を存続し、「場」の存在感を新たにし、地域の活性化に一層資する施策が求められます。

(2) スポーツや運動による地域活性化の取り組み

スポーツや運動には地域を活性化する側面があります。学校教育の場として運動やスポーツの指導を外部に委託し、プロスポーツ選手のセカンドキャリア、及び若いアスリートの幅広い将来のキャリアの拡大に資するようにしたら如何でしょうか。子供たちにとってもスポーツキャリアを伸ばす機会を得ることにもなります。

(3) スポーツ健康産業に係るビジネス展示会の振興

スポーツ健康産業のビジネスを一層振興するには、B to B、B to Cのいずれにしる、展示会において直接、face to faceで商談することが生の情報提供、顧客からの信用獲得、事業者相互間のネットワークを築く上で重要です。

わが国最大のスポーツ・健康産業総合展示会である「SPORTEC2020」は、感染症の対応を万全にして、2020年12月2日～4日に開催し、コロナ化にも拘わらず延べ25,000人強の来場者、約600社が出展しました。SPORTEC展示会は関係者の努力と来場者の期待により年々、盛況になっているところです。

(備考)

※注1 第8回スポーツ振興賞受賞者（令和2年12月2日表彰式）

☆スポーツ振興大賞

“三密を避けた”冒険レース

ありのままの自然を活用した、アドベンチャーレースを全国で展開

受賞者：有限会社エクストレモ（東京都墨田区）

☆スポーツ振興賞

○スポーツ庁 長官賞

防災スポーツ ～スポーツを通じて楽しく学ぶ防災学習プログラム

受賞者：株式会社シンク（東京都千代田区）

○観光庁 長官賞

瀬戸内海に浮かぶ本州西端の宝島「くだまつ笠戸島アイランドトレイル」

受賞者：くだまつ笠戸島アイランドトレイル実行委員会（山口県下松市）

○経済産業省 商務・サービス審議官賞

-With コロナ時代に適応したサイクルツーリズムの新しい形-

次世代観光サイクリングMAPアプリ「ツール・ド」

受賞者：一般社団法人ルーツ・スポーツ・ジャパン（東京都新宿区）

○日本商工会議所 奨励賞

有馬-六甲 Virtual Ride Race

受賞者：有馬-六甲 Virtual Ride Race 実行委員会（兵庫県神戸市）

○一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長賞

BOSO（房総×防草）草刈サミット～スポーツ×草刈で地域課題解決プロジェクト～

受賞者：一般社団法人ウェルネススポーツ 鴨川（千葉県鴨川市）

○公益社団法人スポーツ健康産業団体連合会 会長賞

国際バスケットボール連盟 正式競技 3人制バスケットボール「3x3」

宇都宮市でクラブチーム世界一最終決定戦またオリンピック出場国発表記念イベントを同時開催

受賞者：FIBA 3x3 World Tour Utsunomiya Final 2019 実行委員会（栃木県宇都宮市）

※注2 シンポジウム（抜粋）

- ① FOOT BALL DREAM ～スポーツと地域活性化にむけた鹿島アントラーズの事例～
講師：牛島 洋氏 元(株)鹿島アントラーズFC 代表取締役社長
- ② 人と街を元気にするスポーツ～池田弘・新潟からの報告
講師：池田 弘氏 (株)アルビレックス新潟取締役会長
- ③ 観光立国に向けたスポーツ観光の推進
講師：溝畑 宏氏 観光庁長官
- ④ 震災復興とスポーツの底力
プレゼンター：スポ団連関係団体等
- ⑤ スポーツ・文化・観光による地域創成の試み
講師：原田 宗彦氏 早稲田大学 教授
- ⑥ 2020 東京オリンピック・パラリンピック・レガシー
講師：間野 義之氏 早稲田大学 教授
- ⑦ スポーツビジネスの未来について
講師：石井 宏司氏 (株) スポーツマーケティングラボラトリー
エグゼクティブディレクター
- ⑧ スポーツの未来
講師：鈴木 大地氏 スポーツ庁長官
- ⑨ ポスト東京 2020 オリンピック・パラリンピックの行方
講師：押見 大地氏 東海大学体育学部 講師 他
- ⑩ スポーツの多様な可能性を目指して～第8回スポーツ振興賞受賞事業の発表～
講師：丁野 朗氏 東洋大学大学院 客員教授、受賞者

※注3 情報交換会の開催（抜粋）

- ① 次世代ヘルスケア産業への期待 ～成長戦略2年目の取組み～
講師：森田 弘一氏 経済産業省 ヘルスケア産業課長
- ② 認知機能低下予防への取組みポイントと事業の概要
講師：大淵 修一氏 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター
高齢者健康増進事業支援室 研究副部長)
- ③ 医療から見る、スポーツ・健康づくりの推進
講師：羽鳥 裕氏 公益社団法人日本医師会 常任理事

- ④ 健康長寿社会を実現するためのスポーツ・健康づくり医療から見る、
スポーツ健康づくりの推進
講師：辻 一郎 氏 東北大学大学院 教授
- ⑤ 生涯現役社会構築に向けたヘルスケア産業政策について
講師：岡崎 慎一郎氏 経済産業省 ヘルスケア産業課 総括課長補佐
- ⑥ 官民連携による健康経営のまちづくり・生きがいづくり
講師：森安 保氏 鳥取県 伯耆町長 他
- ⑦ 生涯現役社会の実現に向けたヘルスケア産業政策について
講師：丸山 晴生氏 経済産業省 ヘルスケア産業課 課長補佐

※注4 調査研究事業（抜粋）

- ①現代のスポーツ健康産業の新たな課題とその対応策に関する調査研究（H20）
＜副題：“スポーツ化するゲーム”と“ゲーム化するスポーツ”＞
- ②多様化するスポーツ健康市場における新たなビジネスモデルのあり方に関する調査
（H21）＜副題：“カジュアルスポーツを活用したスポーツ人口拡大へ向けて”＞
- ③医療生活産業の品質認証調査（H22）
- ④医療生活産業品質認証モデル調査（H23）
- ⑤医療連携プロセス標準策定調査（H24）
- ⑥健康マネジメントの標準化・可視化事業（健康マネジメントの標準化コンソーシアム）（H25）
- ⑦認知症予防を目指す統合型MC I 早期介入プロジェクト」（H26）